

(内表紙)

「覚書」

申九月十二日夜左之通申来

仁杉五郎左衛門 様 蜂屋新五郎

貴様御同居叔父仁杉又市殿、御尋之儀有之候間、同道人差添、明十三日四時、御役所江差出候様、用人中より年番江中東候処、御相番之儀二付、私方二て取計可申旨中米候間、此設御途中候、以上 九月十二日

尚々昨日御同道御相番衆名前猶可申遣候、以上

右之通申来候二付致承知、右刻限無遅滞差出候様手当可致旨、蜂屋氏え返書遣又

- 一、即刻右之通又市御尋之儀有之、明十三日四時、御番所へ差出候植被仰渡候二付、明日助番之處差控可罷在哉、伺被呉候様当番え書面を以申遊候処、佐久間守衛ヲ以て相伺候処、先ツ不及其儀、明日出勤之上夕方迄二様子次第伺候様、同人ヲ以被仰渡候旨返古来ル
- 一、同十三日四時相番本多鶴之進同道被致候旨二て被参候二付、肩書違候間、同人覚書二左之通半切紙え認遣又
但又市儀病氣二付駕籠二乗遣又

仁杉五郎左衛門方
厄介致し置候同人叔父
原田又市

右は先達而養方離縁後は母方苗字原田と名乗来候、此段宜被仰上可被下候

右之通召達被出候処、一通り御尋之上揚り屋え被差遣候二付、同日助番二出居八右衛門も詰合二付、左之通差控伺書年番小原惣右衛門を以差出候処、先ツ不及其儀旨被仰渡候

差控之儀奉伺候書付

両 名

私共叔父原田又市儀御吟味之儀有之、今日揚り屋江被差遣奉恐入候、依之私共儀差控可罷在候哉奉伺候、以上

九月十三日

仁杉八右衛門

仁杉五郎左衛門

前書之通先ツ差控不及旨被仰渡候間、右之趣相番并同役衆江廻状致し、親類衆江も其段為知遣、尤夜二入候間、翌早朝為知遣又、三好左京太・武藤弥太郎・岡田左兵衛方江為知遣候事、宮地養立江も申遣。

- 一、十四屋時頃、又市方江送り物遣、八右衛門方若党平差添、小者兩人二為御番所へ差遣、自分病氣二付。名代右衛門儀、左之書付を差出、如例裏書押切致し改済、直二牢屋敷へ持参、尤八右衛門八御番所申上之取計而已二て、牢屋敷江は若党計り遣又

仁杉五郎左衛門

覚

一、布団

吉

是八五布布団を遣又

一、小袖

吉

- 一、襦袢 壹
 - 一、布子 壹
 - 一、茶飯 一桶 此飯八煮染入、桶八北島より源兵衛と申もの相頼、坂本より和泉やと申餅屋にて荷ひ桶
 - 一、煮染 一桶 一荷借賞ひ候て入遣ス、尤入もの八直二明ケ返ス
 - 一、香之物 大根五本
 - 一、梅干 二桶
 - 一、干肴 百枚 此梅干・干肴二品八服部久左衛門殿より被呉候二付、一所二遣ス
 - 一、手拭 壹筋
 - 一、半紙 二帖
 - 一、銭 式百文
- 右八揚り屋江被差遣候、私方厄介二致し置候叔父原田又市方江送り遣度、此段奉願候、以上

九月十四日

仁杉五郎左衛門

右之通半切紙二認、印形八無之、岩城紙折懸ケ致し遣ス、尤先ツ差控不及旨、破仰渡候内にて、自分より相届遣ス

一同十四日続番二有之、八右衛門八懸り之方江出勤し候処、向方尾崎三蔵、伯父同番新十郎儀、此方御懸りにて享和二戌年九月中揚り屋人被仰付候節、甥八御番遠慮、従弟八御目見遠慮之格被仰付、尤伺之上被仰付候由之例有之二付、例有之上八御同二相成可中間、差控伺中之心得にて可罷在旨、八右衛門江被仰渡、自分江も申通候様被仰渡候二付、同日御番頼合、夕方より罷出候積にて末御番所へ不出内二付、同人より当番江右之趣、直二相達、此方より別段不申遺積申談候処致承知、年書・当番よりも此方江は申越間敷旨同人江申開候由、夕七時前同人引取帰り中間候間、相番同役衆江廻状致し、親類衆江も其段申遣、名前前言同様三人

- 一、遠慮心得方之儀、向方服部新兵衛方二書留有之由にて写被呉候、是八右新十郎一件之節書留置候儀と相見候
 - 一、御番遠慮之事

右は御番は勿論、諸役具一向出不申、尤私にて他出等仕候事八不致、寵り居候事
 - 一、御目通遠慮之格

右八御成見廻出没・評定所出没、都て重立候御用八当番にて差略いたし、相触不申候事
- 一、同十五日、年番より申来候は、原田又市御吟味一件之儀は備後守殿江御引渡可相成候間、差控伺、今日は御進達無之、右御吟味御引渡之儀申上、御進達相济候上にて差控伺御進達有之趣御沙汰二付、心得迄二内々申越候旨二付、忝旨兩名にて返書遣ス
- 一、同十六日、御吟味一件、向方江御引渡相成候二付、又市儀中口一通相分候二付、相番本多鶴之進儀、同日明番二付、同人江御預被仰付、同人召連、向方御番所へ罷出候処、一通御尋之上、猶又同人江御預ケ被仰付候二付、召連罷帰候、同日昼六半時頃帰宅致し、同人より其段御届書下役を以差出、宅番之儀も可然被取計候之様、当番江申遣候由、同人被申聞候二付、自分よりも左之通御届書差出ス、尤同人御届書左之通二付、写置

但右御預二相成、向方へ御引渡相成候沙汰之由、八右衛門方迄、内々申来候由二付、又市乗候駕能并供もの御番所腰懸迄遣、鶴之進江頼遣

下役同心を以出ス

御預被仰付候原田又市、備後守殿江召連候儀二付、申上候書付	
御届	本多鶴之進

此方御祖与力
仁杉五郎左衛門方二致同居候

右八御吟味之筋有之、今日私江御預被仰付、備後守殿御番所へ召連候様、先刻被仰渡候二付、則召達罷出候処、一通り御尋之上、猶又御吟味中私江御預被仰付、追々御吟味可有之旨被仰渡候二付、召連引取申候、依之申上候、以上

九月十六日

本多額之進

自分より御届書、左之通

父原田又市御預被仰付候儀二付中上候書付

御届

仁杉五郎左衛門

私方厄介致し置候叔父原田又市儀、御吟味之筋有之、去ル十三日、揚り屋江被差遣候処、今日相番本多鶴之進江御預被仰付、右一件備後守殿江御引渡相成候二付、同人儀召連罷出候処、一通り御尋之上、猶又御吟味中、同人江御預被仰付候二付、引取、私方江召連罷帰候、依之申上候、以上

九月十六日

仁杉五郎左衛門

右御届書差出被呉候様、相番筆頭蜂屋新五郎江頼遣、且又右二付、八右衛門儀は不及差控、明日より出勤致し候様、詮議方類役中村又蔵江被仰渡置、同刻申来二付、何れ自分儀も同様之儀二付、此方より否相同候二八無之候得共、右御届差出候席、新五郎より同被呉候様、是又頼遣候処、直二御番所江被出、千葉武太夫を以御届書差出、差控否之儀も口上二て被相同候処、不及其儀旨、同人を以被仰渡候段、罷歸り被申越候二付、承知いたし候旨返書遣又

一、右二付、先達て伺書差出置候処、不及差控旨被仰渡候間、明日より出勤いたし候段、当番江申遣、相番同役衆江廻状致又

但、昨日年番より内意申越候通、御吟味お引渡申上書御進達相濟候上にて差控、御伺可被成御沙汰之処、右御進達相濟、直二御引渡之節御預二相成候間、差控之儀は御進達二不相成、其低不及差控相濟候事

一、右に付三好・武藤・岡田・宮地江為知遣又

一、右、向方え召達候節、鶴之進下役年寄同心大竹清太夫・若同心人見周助、出前書御預二相成候、御届書八周助持参、清太夫八直引取、鶴之進付添被居候

一、同夜九時頃、吉田十郎兵衛為宅番被参候二付、鶴之進交代被引取候

一、同夜八時、徳岡栄蔵交代、同刻過下役同心大竹彦五郎・永谷兵古来ル

一、七日朝五時、中村八郎左衛門交代下役佐々木作兵衛・中野弥三郎

一、同日夕八時、荻野政七下役棚橋喜内・桑原八郎兵衛交代

一、同夜五時、蜂屋新五郎下役大里丹次郎・中村鉄蔵交代

一、同夜八時、稻沢又十郎下役石沢又兵衛・人見周助交代

一、十八日朝五時、徳岡政左衛門下役佐々木藤五郎・岩井金次郎交代

一、同日夕八時、小原惣右衛門下役笈彦七・渡辺喜十郎交代

但、今日四時、御呼出之旨、蜂屋新五郎方江申来二付、相番中申合候処、鶴之進儀八、明番二付、旁徳岡政左衛門宅番より直二召連、下役年寄大竹清太夫・若同心人見周助差添罷出候間、右留守中八宅番之衆被引取歸り次第申遣候積り、尤同日自分当番二付、小原江は其段直二申聞、下役八家内二て右之段申聞置候処、夕七時頃帰宅二付、小原并下役江申遣、即刻被参、徳岡と交代被致候

一、右之通、向御番所江召連被出候処、懸り与力吟味下調之上差戻候旨、申聞候二付、引取候段、下役若同心を以、政左衛門より御届書被差出候

一、同日夕七時過、自分当番二て罷在候処、高木良右衛門を以被仰渡候、原田又市儀、自分江御預替可被仰行間、只今早々向方御番所へ罷出候様被仰渡候二付、右一件相濟候迄、御番諸役相断候旨、当番江申達、即刻罷越候処、於御白洲、備後守殿被仰渡、自分江御預被仰付候二付、吟味所おみて証文印形致し、直二引取候事

但、向方当番所へ参り候処、懸り吟味方松浦作十郎被罷在候二付、肩書無之手札差出、可然申上被呉候様申談候処、案内有之二付、白洲江罷出、尤継上下帯剣二て出ル

- 一、右之通御預替相成候間、早速引取暮、暮時前帰宅致し候処、小原江宅番二不及旨、当番より留触来候由二て、自分帰宅不致内同人被引取、下役兩人罷在、下役江ハ未留触不来由申聞候間、当番より定触役江留触出候ハ、自分御番所二罷在候内二付、押付可参間、最早被引取候様申談、不残引取候事
- 一、右二付即刻御届書、左之通差出ス

私叔父原田又市御預替被仰付候儀二付、申上候書付

御届

仁杉五郎左衛門

私方同居仕候叔父原田又市儀、御吟味之筋有之、去ル十三日揚り屋江被差遣候処、其後御預被仰付、右一件一昨十六日、備後守殿江御引渡相成、一通り御尋之上、猶又御吟味中召連人本多鶴之進江御預被仰付置候処、今日私儀、右御役所江被招呼、以来私江御預被仰付候二付、今日より御番不勤性付添心付罷在候、此設中上候 以上

九月十八日

仁杉五郎左衛門

右御届書差出被呉候様書面相添、当番江為持遣ス

- 一、右二付、猶又親類中へ為知遺候処、三好左京大儀は、昨夜遠慮御免被仰付候由、返書二申越候
- 一、自分江御預替二相成候儀二付、御懸合御返書写年番佐久間次郎太夫為見られ候二付、為心得写置、左之通

弥御障無御座珍重奉存候、然は一昨日御引渡有之候浅草田原町寺丁目文右衛門一件之内、原田又市儀、同道人本多額之進江預ケ遺候処、又市儀は仁杉五郎左衛門厄介入之儀二付、同人儀御番為御引付添被仰付候て御組与力共ハ宅番不被仰付候之旨、尤一昨日、本多鶴之進儀ハ当番二付、同道人二て御差出被成候得共、御組与力之内病氣引込等も有之、外御用向差支二付、右之通御取計被成候得共、存寄無之候哉、先刻御談落二付被仰聞候、御書面之趣何之存寄無御座致承知候、以上

九月十八日

永 備後守

根岸肥前守 様

尚以御端之趣致承知候、拙者何之存寄無御座候間、後刻仁杉五郎左衛門御差出可被成候、以上

- 一、同日、向方於御番所、召連人徳岡政左衛門江懸り吟味方松浦作十郎申聞候由、親類書写差出候様徳岡并蜂屋より書面来二付、致承知候旨返書遣ス、同日、自分江御預替相成候二付、以来御呼出之節々召連人之儀、相番衆之内同道被致候哉、又ハ自分計二て外二召連人不及候哉、取計方相談致し被呉候様蜂屋江申遺候処、翌十九日、年番江自分方より之書面相濟、懸合書遣候処、右は自分儀召連罷出候て宜筋と被存候得共、向方例も有之趣二付問合、右例之否次第二て自分江談候様年番兩人より申来候由、且又、又市親類書写差出之節ハ、相番より差出可申旨是又申来候由、右二付、先年尾崎新十郎親類秋山幸八江御預相成候節之例、自分方より問合候様、蜂屋ヨリ申来二付、則問合二遣ス
- 一、同廿日、年番より申来候ハ、備後守殿江御呼出之節ハ、預り人二も有之上ハ、自分同道致し、御届之儀ハ、書面二て下役を以て可申上旨、宮下貢右衛門江申達候処、共通二て宜旨申聞候段、申来候由、蜂屋より申来、尤別段年番より自分江は不達旨申来ル
- 一、同日右御呼出之節、下役之儀ハ相番年寄老人・若同心老人罷出可然存候旨年番より申来候由、共通可取計旨蜂屋より申来
- 一、同日、秋山幸八より返書、別紙二左之通
先年、三蔵方厄介入、幸八江御預中呼出之節、別段相番差添無之、当人召達、幸八老人罷出候、尤駕江は年番方より達有之、同心申付添候儀御座候、但年寄同心

忝人、若同心忝人付添候儀と覚候由申来ル

- 一、同日、右之通秋山よりも申来、此方趣意も同様二有之段、蜂屋江え申遣置
- 一、同日、昨日被相達候親類書之儀、親類書二て八、又市出所之儀、入組相分中間敷間、書取二致し、差出候て八如何可有之哉、別紙之通認、原善左衛門ヲ頼、同人より松浦作十郎江問合、右二て宜候ハ、直二受取呉候様、且又別段親類書ハ不差出とも宜哉之旨、問合被呉候様頼遣又

口上之覚

私儀ハ、山村信濃守殿町方御勤役之節、同御組与力相勤候仁杉幸右衛門二男二て、幼年之砌、父幸右衛門儀、其頃稲葉丹後守殿家来医師宮地要三二男五郎八郎を私姉江養子二相願、同人儀、御番見習相勤罷在候処、天明七未年、同御祖与力明跡江新規被召抱、父幸右衛門儀ハ翌中年、場所特被仰付、御書院番松平下野守殿与力江御入人二相成、私儀は、兄右仁杉五郎八郎里方二て、十八年以来上州利根郡沼田二住居仕候郷土須田加賀八方江養子二相成候後、私実父母共病死仕候、其後養方不熟二付、対談之上、四年以前巳年五月中離縁受、甥仁杉五郎左衛門方江被引取、厄介相成罷在候、且又養方離縁仕候後は、私実母方親類之苗字原田と相名乗来申候、以上

申九月

原田又市

右は其後、沙汰無之、直二被受取宜様被取計候儀と相見、一向沙汰無之二付、八右衛門より善左衛門江承り候処、右ハ直二受取可然取計候旨被申聞候由二付、親類書ハ不差出相濟候事

- 一、同廿三日、原田又市、自分江御預替二相成候上ハ、以来備後守殿江御呼出之節、年寄同心・若同心不及差添旨、武太夫を以何之通被仰渡候二付、以来八年寄・若同心御呼出之節差越不申旨、年番より申越候二付、致承知候段返書遣又
- 一、同日、右同様二付、同心中不及差出候二候間、其通取計候様年番より申来候二付、申越候段、蜂屋より申越、且御届之儀も自分より差出候積り之旨年番え返書二申遣候段、是又申越候間、致承知候旨返書遣又
- 一、同日、右之通同心中付添相止候二付、御呼出之節々御届之儀は自分家来二為持遣し、当番衆を以差出候様可致間、其段兼て承知被敷候様当番衆え申談候設年番より中東二付、承知之旨返書遣又
- 一、十一月期日夜、蜂屋より申来候ハ、又市儀御尋之儀有之二付、同道人差添、明二日四半時、備後守殿御役所江可差出旨、用人中并年番よりも申来候間、同道可罷出旨、右別紙兩通相添差越候間、其段致承知、右刻限無遅滞召連可罷出旨返書遣、別紙相返又
- 一、同二日四半時、又市召連、北御役所江罷出、直二玄関江致同道、手札ハ肩書共認、次江召連人、自分名前認、尤半切紙右手札取次之者江差出、広間二控させ置、又市も刀は持候て、上り広間二罷在候席江差置、自分ハ付添罷在候、且又、折節当番所等江罷越、致挨拶、弁当等同所勝手二て致食事候、又市食事之儀ハ、御玄関より下り召連候て、勝手下陣江相廻り、小者林平罷在候所二て為致支度候積り、右ハ此前之例二て、其通当番衆二も承知二候、且又今日口合被仰行跡二て、自分も白洲江罷出、又市御預御免被仰渡、自分江も其段心得頭江可申立旨被仰渡、又市口書・判形相濟、夕七半時頃引取、同人ハ直二宅江歸し、自分ハ此方御番所江相廻り、其段用人千葉武太夫を以口上二て御届申上、当番衆江ハも其段相断、左之通
右中上、且右二付自分出番之儀是又口上二て御届申上、当番衆江も其段相断、左之通
- 一、右御預中御番不勤致し、付添罷在候処、今日口合被仰付候上、御預御免被仰渡候間、明後四日、御番より致出番候旨相断候事
- 一、其後御呼出之節、最早御預御免之上ハ、相番中差添可然候得共、右御呼出之節、自分同道之例も有之上ハ、矢張自分差添出候て可宜旨、相番衆并年番衆一同被申聞候間、其心得二て罷在候

町奉行 根岸肥前守組与力
仁杉五郎左衛門叔父二て厄介致し置候
原田又市 口上
申五十四歳

申九月十六日預

- 一、私儀、御吟味筋手入之儀、頼受候趣相聞、肥前守御役所へ被召出、揚り屋江被遣、其後出牢、御預被仰付候上、当御役所江御引渡相成、猶又御預被仰付、御吟味御座候

此段、私儀山村信濃守殿町方勤役之節、同組与力相勤候仁杉幸右衛門次男二て、初年之節、父幸右衛門、其頃稲葉丹後守殿家來絵師宮地要三次男五郎八郎を私姉江、聳養子二相願、同人儀は御番見習相勤候処、五郎八郎儀、二十六年以前末年、同組与力明跡江新規被召抱、父幸右衛門は翌中年場所特被仰付、御書院番松平下野守殿与力江御入人二相成、私は兄仁杉五郎八郎里方二て拾八年以前卯年、上州利根郡沼田二住居仕郷土須田加賀八方え聳養子二相成候後、私実父母共病死社候、其後養方不熟二付、対談之上、四年以前巳年五月離縁受、右五郎八郎倅二て、甥仁杉五郎左衛門方え被引取厄介二相成、私実母方親類之苗字原田を相名乗申候、当四月下旬懇意二致し候御絵師狩野素川方江咄二参候処、同人儀、馬喰町武丁目五郎兵衛店利兵衛ト兼て懇合二て、利兵衛相頼候は、浅草田原町壱丁目五人組持店茂右衛門と申もの之舅、同店文右衛門儀、肥前守御役所江質物屏風出入二て、下谷金杉上町宇右衛門店次郎兵衛相手取願出候処、御吟味二相成、同人は入牢、文右衛門は手鎖御預被仰付候由、此上文右衛門身分如何可相成哉、何卒事輕相濟候様致度、右御吟味懸り肥前守組与力私甥仁杉八右衛門江手筋も有之候ハ、申込呉候様、茂右衛門頼候旨、利兵衛被相頼候処、素川儀、八右衛門は知人二候得共、懇意二無之、右体之儀承合候儀難相成、八右衛門江内談致候儀は可相成哉之旨申聞候、兼て御吟味筋二付、頼ケ間敷儀等、決て取次致間敷旨、八右衛門よりも堅申聞置候二付、右体之儀、同人江難申聞旨、其場二て直二及断候二付、同人よりも先方江可相断旨申候、子細無之儀と等閑二相心得、八右衛門江申聞候心付も無之、其俣打過罷在候、兼々八右衛門・五郎左衛門より手当有之候得共、同七月盆前、急二金子二差支、素川儀は毎度金子借貸致し候儀有之候間、同十三日同人方江罷越、五郎左衛門・八右衛門より手当受取次第返済可致、金子貸呉候様相頼候処、時分柄之儀二付、操合次第二て可用立旨中間、翌十四日金壱両素川小もの二為持差越候二付、落手致し手当受取候ハ、早々相返可申旨之手紙、右使之もの二差遣申候、然処素川儀茂右衛門より先達て面被相頼認遣候謝礼等、兩度二金十兩受取候処、右八御吟味筋手人頼受候音物として受用致し、右金子之内私儀貰受、其上一件落着致し候二付、八右衛門方江差遣候謝礼金二十兩差出候様、素川儀、利兵衛を以文右衛門方江申遣候得共、不差出候二付、素川儀文右衛門方江罷越、同様申聞候儀有之趣相聞候哉、同九月十三日肥前守御役所江被召出、揚屋江被遣、其後出牢御預被仰付、同十六日当御役所江御引渡相成、猶又御預被仰付候儀二御座候、再応御吟味御座候得共、素川より御吟味筋二付、手人頼受候儀は勿論、同人より借受候金子は右体手入帳受候音物之内二は曾て無御座候、右之通私儀兼て懇意二致し候狩野素川方江咄二参り候処、文右衛門儀、肥前守御役所江屏風質物出人願立候御吟味中、手鎖御預被仰付候由、此上身分如何可相成哉、何卒事輕相濟候様致度旨、文右衛門聳茂右衛門より被相頼候二付、其段右吟味懸り私甥仁杉八右衛門江内談致し候儀ハ相成間敷哉之旨、申聞、右体御吟味筋二付、頼ケ間敷儀、決て取次致間敷旨、兼て八右衛門申聞候故、直二及断候ハ、八右衛門江も可申聞候処、無其儀、殊二素川江及断候上ハ、金子借用等之儀、遠慮可致処、其心付も無之、聊なから金子借用致し候段、不念之至無申披奉誤候

右之通相違不申上候、以上

申十一月二日

原田又市

- 一、十一月廿八日夜、蜂屋氏より申来候ハ、又市江被申渡候儀有之候間、同道人差添、明廿九日九時、備後守殿御役所江可差出旨申来候間、差出候様被仰渡候段、用人中より申来候旨申越候間、致承知候段、且差添人之儀ハ、先達て談置候通、自分付添可罷出旨返書遣又
- 一、右御呼出二付、召連罷出候間、明に住計九日御番諸役断候旨当番衆江手紙遣又
- 一、同廿九日昼九時、又市召連備後守殿御番所江罷出、諸事先達て之通二て控罷在候処、今日一件落着被仰渡、急度叱り被仰付候、又市儀は手形証文印形いたし、熟覽いたし候処、懸り吟味方二て引取候様、申聞候二付、直二引取、同人八宅江返し、自分八直二御番所江相廻り、左之通御届書千葉武太夫を以差出又

私叔父原田又市儀、備後守殿御役所江召連候儀二付、申上候書付 御届	名
-------------------------------------	---

私伯父二て厄介致し候原田市儀、御呼出二付、今日九時、備後守殿御役所江、召連候処、御絵師狩野寿石父隠居狩野素川、御吟味一件、今日落着被仰渡、又市儀は急度叱り被仰候旨被仰付候、右は牧野備後守殿依御差図被仰渡候間、其段御届可申上旨被仰渡候、此段申上候、以上

十一月廿九日

仁杉五郎左衛門

- 一、右御届書而巳二て、手形写等ハ差置不申候
- 一、右御咎被仰付候得共、八右衛門・自分兩人共差控同ハ差出不申候

申渡

牧野備後守殿御差図

御絵師

狩野寿石父隠居 狩野素川

其方儀、浅草田原町壺町目文右衛門より下谷金杉上町次郎兵衛え相懸ル質物出入吟味中、文右衛門手鎖預二相成付、同人身分此上事輕相濟様、吟味掛り之もの江手入致呉候様、利兵衛申聞候ハ、可及断処、無其儀、原田又市まで申談段罷忽之至り、且茂右衛門より絵絹料并為謝礼金子相送段、吟味之上無相違相聞候得とも、右体吟味筋之儀、相頼ものより金子貰受段、紛敷致し方旁不埒二付、押込申付之

町奉行根岸肥前守組与力

仁杉五郎左衛門方二

厄介いたし置候同人伯父

原田又市

其方儀、浅草田原町壺町目文右衛門より下谷金杉町上町次郎兵衛え相懸候質物出入之儀二付、手人之儀、狩野素川申聞候節、及断程二て、甥仁杉八右衛門江申聞候心付も無之、其上金子手支候迎、右体吟味筋之儀、相頼ものより金子借受候段、紛敷致し方旁不念二付、急度叱り置

浅草田原町壺町目五人組持店

文右衛門

煩二付、倅卯之助

其方儀、下谷合杉王町次郎兵衛江相懸候質物出入二付、手鎖二相成処、此上事輕相濟様吟味懸り之もの江手入致し呉様、聳茂右衛門江申聞、同人より利兵衛を頼、狩野素川迄手人之儀相頼始末二相成段不埒二付、過料五貫文申付候

浅草田原町壺町目五人維持店

茂右衛門

其方儀、同店文右衛門より下谷金杉上町次郎兵衛江相懸候質物出入之儀二付、文右衛門儀、吟味中手鎖預二相成二付、此上事輕相濟様吟味懸り之もの江手入いたし呉様、文右

衛門任申聞候利兵衛を頼、狩野素川迄手人之儀相頼始末不埒二付、過料五貫文申付ル

馬喰町貳町目五郎兵衛店

利兵衛

其方儀、浅草田原町壱町目文右衛門より下谷金杉上町次郎兵衛江相懸ル質物出入吟味中、
文右衛門手鎖預二相成二付、此上事輕相濟様吟味懸リ之もの江手入之儀、茂右衛門申聞
候共、可及断処、無其心付も、狩野素川迄手入之儀相始末不埒二付、過料五貫文申付ル

町奉行 根岸肥前守組与力

仁杉五郎左衛門

御絵師

狩野休伯

一、狩野素川外壱人儀は、牧野備前守殿依御差函、右之通申渡間、得其意、頭并其筋江
可申聞
右申渡趣、一同証文申付ル

右町役人

右之通申渡間、其旨可存
申十一月廿九日

一、手形証文八、右被仰渡文言同様二て、未左之通

右之通被仰渡奉畏候、為後日仍如件

月 日

原田又市 印